慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	モルゲンシュテルン 実験と大規模計算
Sub Title	
Author	小尾, 恵一郎
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1954
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.47, No.12 (1954. 12) ,p.1164(86)- 1167(89)
JaLC DOI	10.14991/001.19541201-0086
Abstract	
Notes	書評及び紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19541201-0086

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

第六章では「新しい治水技術を確立してゆく」(一四九頁)為に、過去の治水技術である「乗越堤」・「信玄堤」・「かすみ堤」及に、過去の治水技術である「乗越堤」・「信玄堤」・「かすみ堤」及に、過去の治水技術である「乗越堤」・「信玄堤」・「かすみ堤」及に、過去の治水技術である「乗越堤」・「信玄堤」・「かすみ堤」及に、銀い、「かすみ堤」と「これをつなぐ水害防備林」は、農民がみずから作った」(一八八頁)といるでは、一次ではあるが、水害規模の縮少という現實的要求に應べんとし策ではあるが、水害規模の縮少という現實的要求に應べんとし策ではあるが、水害規模の縮少という現實的要求に應べんとした結果であるが、水害規模の縮少という現實的要求に應べんとした結果であるが、水害規模の縮少という現實的要求に應べんとした結果であるが、水害規模の縮少という現實的要求に應べんとした。この主なが力に対するで、全の原因は、オランが技術が、日本の河川乃至山敗を意味する。その原因は、オランが技術が、日本の河川乃至山敗を意味する。その原因は、オランが技術が、日本の河川乃至山敗を意味する。事質明治五年來朝したドール(C. J. Van Doorn)を光度を調とする方が、一度、カーストリア技術の解しては、かなりましてある。それにも拘らず、別によりに下野園三郎を描いて、日本の傳統的技術の適應性について示唆を與へてゐる。(一九一頁)この結果治水政策は混めによりに下野園三郎を描いて、日本の傳統的技術の適應性について示してある。とが出來なかったである。との點に論旨を集中することが出來なかったである。と、オーストリア技術に關しては、かなり詳しく述べてわる。一般述に終われてある。他の幾つかの問題を省略しても、オーストリア技術に関しては、かなり詳しく述べてわる。

學○介○けしもな 藝月が圓れ、知か 欄一行」は更れつ ○は最ならは、 お後らは、。 お後になる。 日號、六四頁」・「朝日新聞れてゐることを附記する。後に、本書に就ては、旣に、の下為ろう。(東洋經は、本書自體を平凡な解説は、本書自體を平凡な解説は、本書自體を平凡な解説は、本書自體を平凡な解説は、 日新聞、昭和二九年九月 日新聞、昭和二九年九月 東洋經濟新報社、二七七 にいる事實 である。「週刊朝日、昭和二九年九月 には、或ひは望蜀の類に 一紹六な化か

· · · · · · · · · · 實ル ゲ ソジ ユテ ル 1

驗 ※と大規模計 算

0 Experiment and ...

Morgenstern " Morgenstern

Economic A

Morgenstern Activity Large Scale Analysis, Ed.

て緒るにこかい統 實でるばる模經濟 験行とか。型濟學 験の不可能に就ての反省に、行われた革新的な見方も可能かりでなく現象一般の認識かりでなく現象一般の認識がりたないない。ストカスティクな現象攻型として把握しようとする濟體系を(その妥當性如何學の足跡は、實驗計畫法に

はタ内 作造を示す! でありこ 特れ係 特性の不偏な把握を が式(Structural をら

か値膨共かつ もの大分らて

不可能でする あ機析

に象に不整學 でのもれむるく文 る器は 變場な散構問意所よ學計可はが理あで現てし、十はことが極多數合計の造組味 は極めて高速の計算器で處理しうる最高の限界である。しかな計算が含まれる。實際約六變數に關する質と、とは通常と、多數個の聯立方程式系の解を求める膨大体がなければ模型の具體化とその檢證は殆どの場合不可能であるといってよい。とは通常を地えるとは通常といってよい。とは、ハーヴァード、ミシガン、プリンストン等の大學は極めて高速の計算器を必須とするのであるから高速の計算器を必須とするのであるから高速の計算器を必須とするのであるから高速の計算器を必須とするのであるから高速の計算器を必須とするのであるから高速の計算器を必須とするのであるから高速の計算器を必須とするのであるから高速の計算器を必須とするのであるから高速の計算器を必須とするのであるから高速の計算器を必須とするのであるから高速の計算器を必須とするのであるから高速の計算器を必須とするのであるから高速の計算器を必須とするのであるから高速の計算器を必須とするのであるから高速の計算器を必須とするのであるから高速の計算器を必須とするのであるから高速の計算器を必須とするのであるがら高速の計算器を必須とするのであるがら高速の計算器を必須とするのである。必要な資料がである。後者は例えば天候の變化をはなはではななり、資料は整つても一定の計算技術を以てしてはといる。である。必要な資料が変なるとしては登録を対象を表する。必要な資料がある。必要な資料が変なるというとは、資料は整つても一定の計算技術を以てしてはから、資料は整つである。後者は関えば天候の變化を表する。必要な資料があるとしてもある。 大のしせ點でをの

經結はがない達模 アルガラを楽い計合るに は比のつ算とま数理較天かが、で値 理較天かが、で値論し候な複変にを のてのい雑料は與 構理豫となは往え 成論報いる整多に たと計算えのこと がに間にある。 を修正する。 つ。にるのし資にか 計。變て料或 算氣化はが科

といる一般である。けれどもこの體系における解の可能性について「未知数と方程式の一致」といる一般には必要でも十分でいないた。一人の一と對比しうるためには大陸を中二分以下で横斷せねばならぬ。現在プリンストンに計畫中の計算の短縮五百分の一と對比しうるためには大陸を中二分以下で横斷せねばならぬ。現在プリンストンに計畫中の計算の短縮五百分の一と對比しうるためには大陸を中二分以下で横斷せねばならぬ。現在プリンストンに計畫中の計算の短縮五百分の一と對比しうるためには大陸を中二分以下で横斷せねばならぬ。現在プリンストンに計畫中の計算としい。即も汽車で四日かかる米大陸横斷は最も違い旅客機でならい。即も汽車で四日かかる米大陸横斷は最も違い旅客機でならい。即も汽車で四日かかる米大陸横斷は最も違い旅客機の更に十倍の連さをもつ。)以上に述べた計算は經濟理論を基礎としたもの即ち現存である。まづの代である。ははじめから理論に基かず、個々の新事實を發見するもの。日はじめから理論に基かず、個々の新事實を發見するもの。日はじめから理論に基かず、個々の新事實を發見するもの。日はじめから理論に基かず、個々の新事實を發見するもの。日はじめから理論に基かず、個々の新事實を發見するもの。日はじめから理論に基かず、個々の新事實を發見するもの。日はじめから理論に基かず、個々の新事實を發見するもの。日はじめから理論に基かず、個々の新事實を發見するもの。日はじめから理論に基かず、個々の新事實を發見するもの。日はじめから理論に基かず、個々の新事實を發見するも

のがある。二つの區別は必ずしも鮮明ではない。第一の種類ののがある。二つの區別は必ずしも鮮明ではない。第一の種類ののがある。二つの區別は必ずしも鮮明ではない。第一の種類ののがある。二つの區別は必ずしも鮮明ではない。第一の種類のであり、例えば在庫量の決定という様な貨際目的のためにアナログコムビューターをある。強者は計算機の構造とフィジカリイに類似の(且つ方程式構造が詳細でなくてもよい)現象にこの種の計算の領域は各科學に於て常に増大しつつあり、必ずたの理論を記述された現實、の表現ではれた事のないの登達と一致しない。しかし、今迄に直接の實驗の行はれたば足りるである。との種の計算の領域は各科學に於て常に増大しつつあり、必ずなのと即性が必要かどうれた事は最終のゴールにははるか否かにかかつている。例えば在庫量の決定という様と一致した。主要における實驗の可能性について。實驗に關しては人を直接的なものと間接なものである。例えば在庫量の決定という様な質際目的のためにアナログマシンは極めて重要であろう。の論如何なるのと同様なものであり、例えば在庫量の決定という様な質際目的のためにアナログマシンは極めて重要である。理論的な分析を直接的なものが區別される。直接的質験に関しては人を直接的なものであり、例えば在庫量の決定という様な質際目的などがは極めて重要である。直接的質験は一定のためのと同様なものであり、例えば實際に貨幣量を提出という様なものである。直接的質験は一定による計算的なものが。1年時による。1年時に

省と規聚機て驗る直化程 略し模さ關いのH接に式 して計れのる意・的對體 たモ算て行。味H實應系 を・験すに 明フにる於 確オ關結て にソす果そ 自・るをこ 日野チ経計会 サー選 算もま にネ想現れ こン史質る ので上のパ

いルのいう 。が將る計 壓ン來け算 史シにれと はコおど私 現テけも的 にルるこ機いン可こ關 まの能での 書考性は行 かえと省う

論があの論なく可とあ提 で必るがを望し能がる案は要。第適遠てと重うす

て相三時 役關時系 立の系列 て計列資 ら算の料の 關。 るこ で・う 又多 あい 第二 ろう 處數 1 理個 のの時 結 (系) 系 結 がえに 一ばお つ五け の十る ,個自 朓以 己 め上相 一の)

やつ可膨

よ在

なわ力跡たののこの考を特う つど すて能大 とのなのか模模分うる監備あたい努飛つ型型なかといった

惠

ジ D

7 による非 食料 商品の

John I X.

特異なぞ 中心にセルフ・ 中心にセルフ・ 中心にセルフ・ 中心にセルフ・ 中心にセルフ・ 中心にセルフ・ マting: Curre F. Ottesr 高して